

和歌山県名匠

かつ また ふみ お 勝 股 文 夫

■ 経歴及び業績

昭和6年日高郡南部川村で生まれ、紀州備長炭生産に昭和24年から従事し、以来、約44年間この道一筋に精励し、南部川村紀州備長炭生産者組合の初代組合長として地域の指導的役割を果たしている。

紀州備長炭の炭窯構築法・製炭技術・炭質は、県内だけではなく、全国的に有名で、作業工程のなかで炭窯に空気を送りこみ、窯の内部の温度を1000度以上にする「精煉」の巧拙が、炭の良し悪しを決める。しかし、窯の内部の状況が見えなく経験と勘だけの作業であるため、熟練した技術が必要になる。

氏は、和歌山県無形文化財の指定を受けている「紀州備長炭技術保存会」から推薦され、紀州備長炭指導製炭士の認定を平成4年に受け、その卓越した技術が高く評価されている。

又、体験学習の指導や後継者育成に情熱を傾けるなど業界のリーダーとして活躍されており、平成2年に「和歌山県農民賞（県知事）」と「林野庁長官感謝状」、平成4年に「特用林産功労者表彰（県知事）」等を受賞している。



職 種 紀州備長炭製作